



立川第八中学校

宇宙船

平成29年度 第10号

URL <http://www.tachikawa.ed.jp/jh08/>

〒190-0013 立川市富士見町7-24-1 TEL(042)526-2007 FAX(042)529-1180

立川市立立川第八中学校長 川崎 達也

良いイメージで自分を創る

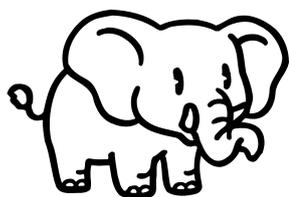
3年生は卒業後の進路選択の真っ最中です。それぞれが自分の希望に向かって、目には見えない大きな壁に全力で立ち向かっていると思います。既に私立校の推薦入試で進学先が決まった人、先日の都立校の推薦選抜で合格した人、上手くいかなかった人、そして多くの人がこれから始まる私立校・都立校の一般入試へと挑んでいくこととなります。

もちろん「選抜」ですから、合格・不合格があります。でも今回の結果がこれからの人生の全てを決定するわけではありません。自分の希望通りにいかなかったとしても、これからの努力で如何様にも挽回できます。いや、悔しかった経験が大きな励みとなり、次のステップへの大きな財産となるかもしれません。今大切なことは、今持っている力をしっかりと発揮しようとすることです。結果はすぐには表れませんが、努力は必ず報われます。そんな皆さんを家族や仲間、そして八中の教職員は応援しています。

さて、今月末には学年末考査も控えています。3年生にとっては八中での最後のテスト、1・2年生にとっては進級する上で、自分の力を知るために大切なテストです。もしかしたら皆さんの中には、「勉強してもだめ、どうせ成績は上がらない」と、やる前から自分の力を決めつけ、努力をあきらめている人はいませんか？人間はそう思った瞬間から、「自分ができる」という良いイメージは消えてしまい、本当にできなくなってしまうものです。このイメージが大切なのです。

例えば、野球やバレーボールなどの試合で「自分のところにボールが来るといやだな～。失敗するんじゃないかな～」などと思っていると、手足が萎縮し本当にミスをします。しかし「さあ、自分の所へドンと来い！」という気持ちになっていると、体がスムーズに動き、自分の力が十分に発揮されます。皆さんもそんな経験をしたことがありますか？

また、こんな話もあります。



ある動物園に1頭の子象がやってきました。その動物園ではその子象の体に合わせて柵を作りその中で飼育しました。子象は柵の外に出たい一心で何度も乗り越えようと挑戦します。しかし、どうしても乗り越えることができません。やがて、挑戦することをあきらめ柵の中で静かに生活するようになりました。

それから月日が流れ、子象も立派な大人の象に成長しました。動物園では、その象も柵もゆうゆう乗り越えられるほど大きくなったので、今度はその象の体に合った大きな柵に作り替えようと考えていました。ところが、象は全くその柵を乗り越えようとしません。以前の経験から、もう自分には乗り越えられないと思い込んでいたからです。結局、その象は柵を乗り越えようと挑戦することもなく一生をその柵の中で生活したそうです。

これと同じことが、私たちにもあるのではないのでしょうか？象を自分自身に、柵を自分の抱えている課題（皆さんの場合は勉強や運動など）に置き換えて考えてみてください。現在のあなたは、この象のように、成長し本当は簡単に乗り越えられるのに、やる前から「できない」とあきらめていませんか？

これからは、「自分はきっとできるのだ」と考えてみましょう。これまでずっと思い続けていたことですから、この象と同じように気持ちを切り替えることは簡単にはできないかもしれませんが、しかし、自分によい暗示（イメージ）をかけ続けることによって、自分のその悪いクセを変えることができるようになるのです。「自分はできる」「自分は素晴らしい力を持っている」と思い、努力してみましょう。そうすれば、きっと性格も陽気で明るくなります。そして成功は向こうから勝手にやってきます。

その時に大切なことは、初めはできそうな簡単な課題から始めることです。小さな課題・・・特に自分にできる所から取り組み、そしてそれをやり遂げる。その積み重ねが自信を生むのです。さらに効果のあることは、周りの人から「頑張っているね」「きっとできるよ」「とっても素晴らしいよ」と言ってもらうことです。その一言が大きな自信ややる気につながります。隣の人を愛することが出来る皆さんなら、友達同士で良い所を見つけ、励まし合うことが出来ると思います。八中には良い流れの相乗効果を生むことが出来る可能性がたくさんあります。ぜひそのチャンスを生かしていきましょう。



北海道大学の前身、札幌農学校の教頭クラーク博士が語った「ボーイズ・ビー・アンビシャス」は「青年よ、大志を抱け」と訳される。しかし「若者よ、野心を持って」でもいいはずだ。大志だと高尚で縁遠い感じだが、野心なら身近にならないだろうか。

作家の林真理子さんは『野心のすすめ』で、大学時代すべての就職試験に落ちた経験を書いている。ただ者ではないのは、もらった40通以上の不採用通知の束をリボンで結び、宝物にしていたことだ。きつと将来成功して、この通知を懐かしく眺める日が来ると信じていたからだという。

「今のままじゃだめだ。もっと成功したい」という野心を、林さんは車の「前輪」に例えた。努力することが「後輪」である。前輪ばかり空回りするのは見苦しいが、回つてないより見込みがあると述べている。

林さんの野心は大きかったようだが、小さい野心もあつていいだろう。例えば仕事で、教養で、リーダーシップで、身近なあの人に追いつきたい、肩を並べたいという気持ち。頑張れば届きそうな憧れと言つてもいいし、身近な仮想敵と呼んでもいい。

車の前輪と後輪を動かすエンジンとなるのは「面白い」「大好き」「人や世の中とつながりたい」といった感性や情熱だろうか。アンビシャスであることは決して若者の独占物ではないが、本領であるのはまちがいない。

今日は成人の日。大きな野心も、小さな野心も、たぐりよせてみたい。若くてもそうでなくとも。

平成30年1月8日、成人の日

朝日新聞「天声人語」より(原文のまま)

薬物乱用防止教室(1月13日)



1月13日に薬物乱用防止教室を開催し、講師にNPO法人八王子ダルクの職員の方をお迎えし、講演をしていただきました。風邪薬も飲みすぎると薬物乱用に発展することや、薬物乱用の体験談に、生徒、地域の皆様も真剣に耳を傾けていました。薬物に手を出さないために「友達をたくさん作ること」「嫌なことは嫌と言えること」が大切という話がありました。

1年スキー移動教室(1月21日～1月23日)

1年スキー移動教室が長野県菅平スキー場で行われました。わた「し」たち「ユ」ウジョウ・キズナを大きな「ワ」にし、「ル」ールを守って、い「つ」でもえがお。「シュワルツ」のスローガンのもと、充実した2泊3日を過ごしてきました。移動教室の様子は、ホームページで写真をアップしているのでご覧ください。生徒の感想文では「スキー教室実行委員をやってみて、責任感をすごく感じた」「アドバイスをし、お礼を言われたときこんな嬉しい気持ちになるんだ」「初めてスキーの楽しさが分かりました」「あきらめないことの大切さを学んだ」など生徒の成長が目に見える内容が多くありました。ぜひ、今後の学校生活に活かしてほしいと思います。

2年校外学習(鎌倉遠足：1月26日)

2年生の校外学習が1月26日(金)に鎌倉方面で行われました。「は」班長を中心に「と」友達と「サ」支え合つて「ブ」文化と「レ」歴史を学ぼう。「はとサブレ」のスローガンのもと、事前学習には、鎌倉の歴史的文化について調べ、実際に見学をしてきました。当日は雪の影響のため南武線が運休となり、急きょ八王子駅、横浜駅経由で行くことになりましたが、生徒は慌てずに行動し、目的地に到着することができました。生徒の感想文では、「臨機応変に対応することがとても大事」「相手のことを思いやること」「時間を守る大切さ」など学んだことを書いている生徒が多くいました。来年度は、修学旅行になります。ぜひこの経験を活かしてほしいと思います。

生徒の活躍

○立川市民大会バスケットボール大会(中学生の部) 男子：優勝 女子：3位

○立川市民駅伝大会(中学生の部) 陸上部男子 4位入賞

○第67回東京都公立学校美術展作品展示

期間：2月13日(火)～18日(日) 東京都美術館(JR上野駅徒歩7分)

○前田 莉歩さん(文化祭ポスター) ○中原 夢結くん・中野 佑紀さん・榎 優菜さん(ペーパーナイフ)

【2月の予定】

- 2月6日(火)2年食育授業、都立一次・分割前期出願(3年)
- 7日(水)小中連携、4時間授業給食、弁当なし
- 9日(金)小中連携：新生小6年生八中訪問
- 14日(水)立中教研発表会：給食、弁当なし
- 16日(金)数学検定
- 17日(土)立川教育フォーラム(RISURUホール)
- 23,24日(金、土)都立高等学校一次・分割前期学力検査
- 26～28日(月～)学年末考査(26日のみ3年授業)